



**佐渡とき保護会
顧問 佐藤 春雄さん**

ひな誕生の日、庭を散歩していると、トキが「ター、ター」と鳴きながら上空を飛んで行きました。その2時間後、環境省から電話で知らされ、私はトキが最初に知らせてくれたのだと思いました。本当に不思議なことでした。

私は今年93歳ですが、トキとの関わりで一番印象に残っているのは、日本初となった野生トキ「ハル」を飼育したことです。高校教師だった私は、たぬき用の罠にかかったトキを保護し、学校で49日間飼育しました。すべてが手探りだったため、学校で寝泊まりしました。フンを集めてトキが何を食べるのか調べ、えさを取りに出かけたものです。この出会いがのちの人生に大きく影響しました。



**生椿の自然を守る会
会長 高野 毅さん**

まずは、「でかした、ようやった」です。自然界は我々が考えている以上に難しいのですが、その中で、トキが自分たちで努力し、訓練しながら積み重ねてきたのが今回の結果だと思っています。

私の生まれた生椿の田んぼには、27羽の群れがいました。トキは羽を広げると約140cm、小学3～4年生が両手を広げ羽ばたいているのと同じです。父は、その美しさをボタンの花が咲いたようだと言っていました。私は、父の意思を継ぎ、再びトキの群れが田んぼで羽ばたく光景を、後世に残してあげたいと思うのです。トキへの恩返しは、トキだけでなく、他の生きものや佐渡の人たちが潤うことに必ず繋がると信じています。



**NPO法人 トキどき応援団
理事長 計良 武彦さん**

出張中に電話で誕生を知らされ、それは驚きました。あとは、無事に巣立って、佐渡の自然のなかに溶け込んでいってほしいと思います。

トキどき応援団は、飼育下でベビーラッシュが始まった平成14年に発足し、トキの野生放鳥に備えて、旧トキ保護センターがあった清水平を活動の拠点に、ピオトープづくりとその維持管理につとめてきました。10年目の節目に今度は野生下でのベビーラッシュの始まりです。トキと人との本当の共生の始まりではないでしょうか。トキたちは安心して餌を採り、人はトキに遠慮することなく農作業ができるような環境づくりにも力を入れて取り組んでいきたいです。



**佐渡トキの田んぼを守る会
会長 齋藤 真一郎さん**

テレビのテロップでひな誕生を知り、翌日放送された映像で実感しました。自然放鳥から3年間、待ち遠しかったので、頑張ってくれたなと思いました。

1999年、中国からトキのペアが来た際、当時の本間新穂村長が、将来必ずトキを野生復帰させるから、その時に備えて、トキの餌が増えるよう生きものがたくさん生息する田んぼにしたいと呼びかけました。生きものや環境に関心が薄かった時代、私はトキの将来のこと、全国で少しずつ出てきた多様な生きものとの共生を目指す新たな農業技術に興味を持ち、取り組むことを決めました。本当の意味での生物多様性農業を今後も地道に続けたいと思います。



**(社)佐渡生きもの語り研究所
理事長 仲川 純子さん**

「感想を聞かせてください。」新聞社からの電話取材で、ひな誕生を知りました。本当にびっくりして、そして、よかったなあという思いが込み上げてきました。また、これまで佐渡のいろいろな方々がトキの保護にいろいろな力を注いできましたので、その願いがようやく叶えられたのだと思い、感激しました。

私たちは、農家の人や子どもたちと一緒に田んぼの生きもの調査をして、田んぼが稲だけでなくさまざまな生物を育てていることを学んでいます。また、市の認証米の普及活動にも取り組んでいます。ひなが生まれ育っている佐渡の豊かな環境を全国に伝え、今後も更に活動していきたいです。



**トキモニタリングチーム
モニター 土屋 正起さん**

新聞記者から「ひながうまれたそうですが、コメントをください。」と電話がきて、初めて知りました。これからまた忙しくなるな、心配ごとが増えるなというのが最初の感想です。

モニタリングチームは、皆目的は違いますが、トキの行動を観察し、連絡を取り合って情報共有しています。山へ行ってトキがねぐらからどこへ飛び、どんな行動を取るのかを調べるのが役目です。

自然界で育っているひなには、観察記録がないので、今後の過程が何もわかりません。巣立ったひながどんな行動をとるのか、保護のためにどうしたらいいのかを見つけて、トキに教えてもらい、感じとっていききたいと思います。

